

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200080		
法人名	社会福祉法人静岡和洋福祉会		
事業所名	グループホーム浜屋		
所在地	静岡市駿河区中島2566-6		
自己評価作成日	令和4年 2月 18日	評価結果市町村受理日	令和4年 4月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 3月 7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム浜屋では開所当時から「あたり前の生活と寄り添う介護」を理念に掲げています。施設のあたり前ではなく、入居者の皆様がこれまでの人生を過ごしてきた中であたり前を大切に考えています。残念ながらコロナの影響で、今まで行なっていた調理や外出、ご家族様と過ごす時間は制限が掛かってしまいました。ですが、その様な状況の中でも私達職員が、あたり前の暮らしの提供とは何かを考え、入居者様お一人お一人への個別のケアを充実させたり、日々の生活を共に送る大切さを感じて業務に励んでいます。浜屋の良さを外に伝える為にも、SNSを利用して発信を続けています。この様な状況の世の中になってしまいましたが、職員は皆、浜屋の本来の姿を見失わず「コロナが明けたら、こうしたい！」という志を持ち続けて毎日の生活を送っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設時より「あたり前の生活の提供と寄り添う介護」の理念を守り努めている。入居者、家族、スタッフとのトライアングル関係と地域とのネットワークを大切に考え取り組んでいる。周辺は民家が多く、散歩での地域の方と交流できる機会も多い。日本家屋のホームは、緊急避難先の特別養護老人ホームに隣接している。スタッフは、「頭を柔軟に体はフットワーク良く」入居者にとって居心地のよい時間を共に過ごしている。日中は玄関・ドア施錠は行わず自立をできるだけ見守るケアをしている。近隣の診療所との協働で看取りに取り組んでいる。「浜屋会議」でホーム管理者、介護支援専門員、ケア主任、ケアスタッフなど全員が活発に話し合い、ケアの統一に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 基盤に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたり前の生活と寄り添う介護」を法人全体の理念に掲げています。和室に掲示する事で、職員以外の人もいつでも目にする事ができます。職員にとってではなくて、“入居者様にとっての当たり前”を考えて日々関わる様に努めています。	『あたり前の生活と寄り添う介護』を理念に居間や事務所等に掲示し利用者、家族、全スタッフへ日々話す事に努め、研修の中で理念の徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	このコロナ禍で関わりが薄くなってしまいう中でも、浜屋の事を気にして下さる方が多く、老人会からお花を頂いたり、近所の方に釣った魚を頂いたり、散歩に出た際には声を掛けて頂いています。	コロナ禍で交流について苦慮しているが、ご近所を散歩しながら有入・無人販売所などに出掛け、近所の方々や挨拶や話ができるように交流している。思う様に外出ができていないが、近所からお魚やウエス等をいただく事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでは地域の方にも参加頂き、浜屋の介護はどんなものかを知ってもらう機会になっていると感じています。インスタグラムなども更新し浜屋の入居者様と職員がどの様に暮らしているかを知って頂く機会に出来ればと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご家族様や包括支援センター・民生委員の方々にご参加頂き、毎回事故・ヒヤリハットの詳細を報告しています。その中で様々な感想やご意見を聞かせて頂けるのでとても貴重な機会だと思っています。	2ヶ月に1回以上の運営会議を開催している。コロナ禍により参加できなかった運営推進会議メンバーへ会議内容(運営方針、ケア状況・課題点、事故報告など)を毎回報告し、直接および書面にて意見や回答を受け、継続的な改善に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のご案内を毎回させて頂き、会議の報告もしています。その他知りたいことや悩む事等があった際には必要に応じて、電話などでも対応を頂いたりしています。	地域包括支援センター等と地域の方々を通じて連携、協働の情報共有に努めている。施設内研修の一貫として、エンディングノートについての提供を受けた。また権利擁護についても説明や協働でアプローチを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の勉強会で必ず取り上げられる課題であり、毎年勉強会を受ける事で振り返る機会になっています。対応に困った時には職員間で、どの様にすれば安全に生活を送ってもらえるだろうか？と話し合い、決まった型に捉われないようなその人その人に合った対応を考えています。	年間で研修を計画しており、リスクマネジメント会議やグループワーク研修を職員全員が受講している。一人ひとりが毎回研修報告を提出し、管理者が丁寧にコメントをしている。玄関は施錠していない。縁側で運動をしたり談笑をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項と同じく、法人全体の勉強会で取り上げられる内容です。毎年繰り返し勉強会を受ける事で自己の対応方法を見直す機会になっています。身体だけでなく、言葉や態度等、入居者様が不快に感じないような対応の図り方を常に考える様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、この項目に該当する入居者様はいらっしゃらないので定期的な勉強の機会は設けていませんが、必要に応じて勉強会に参加したり、知識のある方(他事業所のケアマネさん等)にお話を伺う等は行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時にその都度説明と同意を得ています。ご家族様が理解しやすい様に噛み砕いて説明を行うように心がけています。ご家族様の疑問に感じている事や不満に思っている事は職員が皆で周知してより良く改善出来るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とも日常的にコミュニケーションが図れる様に心がけています。コロナ禍でなかなか難しさを感じているのが正直な感想ですが、LINEやSNSも利用して入居者様・ご家族様・職員の関係が図れる様に工夫しています。	家族へ浜屋新聞やインスタグラムを活用し、入居者一人ひとりの状況や状態を発信している。家族へは丁寧に返信している。現在、運営推進会議は少人数での開催だが、できるだけ家族の方からの意見を伺う機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はいつも、まず職員の意見を聞くという事を大事に考えてくれています。会議の場でもトップダウンの言い方にならない様に気を配ってくれているのがわかりますし、日常的に職員との関わり時間を大切にしていると思います。	ホーム内では、月1回の浜屋会議で職員より要望等を聞き取っている。ホーム長から積極的に職員に声をかけ随時面談も行っている。1年に1回以上、グループホーム管理者が同法人施設長と一緒に職員一人ひとりと個別面談を行っている。	利用者ケア満足度、家族満足度、スタッフ満足度の分析とスタッフのメンタルヘルスに関する予防の取り組みを継続することを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員によって置かれている環境や状況が違うので、お互いに業務が負担にならない様に配慮してくれています。家庭の状況や身体面の状況を日常的に聞いてくれて、職員も話す事が出来る環境にある事が大きいと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性を見てくれることは勿論、弱点にも目を向けて、チームケアとして皆が上手く稼動出来るように何が足りないかを把握して、一人一人の職員にアプローチを図ってくれていると感じます。スキルアップの為に研修会へも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はあたり前に行っていた施設間交流はコロナ禍の今年度は行えていません。ズームでの研修や勉強会の参加などは、業務の中でも時間を設けて参加出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の今までの生活習慣や期待・想い・不安を聞き出来る限り浜屋での生活に反映できるように努めています。また、会話の中で気になった事や得た事を記録に残し、職員間でしっかりと情報を共有する事で入居者様が安心して生活が送れる様に努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や想いを言いやすい雰囲気を作る様に気をつけています。コロナ禍で直接会って話す事が出来ない分LINE等を利用して関係作りの継続が図れる様に努めています。希望に応じてケアの方針を考えていく姿勢を見せる事も大事だと考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要な対応は何か？ご本人様やご家族様が望んでいる事は何かを把握し、必要に応じて他職種と相談したり、かかりつけ医に受診をしています。その他外部のサービス(訪問歯科や訪問マッサージ)を利用する等、環境を整える様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	浜屋では「介護を受ける」ではなく「一緒に生活をする・暮らしの継続」と捉え、今までの生活の一部として家事などを行って頂いています。一人一人の入居者様の出来る事・苦手な事を把握して、全て手伝うのではなく、その方に合ったケアを行なう様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの状況にもよりますが、受診のお願いや、必要な物の購入をお願いし、入居者様と一緒に支えています。心身の状態変化をこまめに報告する事で現状を把握して頂けるようにしています。LINEやSNS・TV電話を使用してコミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様をはじめ、旧友や親戚の方々との電話や手紙(必要に応じて介入)でのやり取りを継続して頂いています。今はコロナで、面会の制限が掛かっているので、いつも以上に心がけていますが、面会の制限が緩和された後にも、継続していきたいです。	利用者同士のコミュニティを大切にしている。縁側で自然発生的なコミュニティを見守っている。共に支え合うケアを大切に本人、家族、スタッフのトライアングルを踏まえて地域と繋がって生活できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士での関わりが円滑になる様に居場所作りを考えています。その時々状況を見極めて必要に応じて仲介に入り、距離をとったり場所を変えたりトラブルの回避にも努めています。コミュニケーションをとることで精神的な安定を図れる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までも、退居されたご家族様からご相談の連絡を頂いたり、ボランティアに来て下さったりと、様々な関わりを持たせて頂いてきました。入居者様が退居された後だからこそ深められる関係性もあります。今年度は退居された方も多かったので、今後の関わり作りの大切さを感じています。		
<b>Ⅲ. 人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的な生活のペースはご本人に任せています。ご本人様が「どうしたいのか?」という事を聞いています。日々の様子を観察し、いつもと違う事が無いかという点に留意しています。1対1で話せる時(入浴時など)の時間を大切にしています。	日常の中で、縁側、居間スペース等で入居者同士の交流、馴染みの近所での散歩や家族との交流が途切れないようにケアを図っている。また一人になりたい場合に見守りのケア、入居者同士のコミュニティにも気を配りケアをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの人生・生活でご本人様が大切にしてきた事等をじっくりと聞くようになっています。職員では分からない事が多いので、ご家族様からのお話を参考にしたり、会話の中で知り得た情報をキャッチする様に努めています。それを継続できる様に心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の精神面や状態を観察し、細かく記録に残す事で職員間での共有をしています。状態は日々変わっているものだと捉え、その変化に対して職員で話し合い、より良いケアに繋げていけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは職員皆の意見を反映する為に、アセスメントやモニタリングのお願いをしています。毎月の会議でも一人一人の個別処遇を時間をかけて行い、振り返りの機会にしています。ご家族様の希望や意見も組み込む様にしています。	本人を中心とした利用者同士、家族との関係性を踏まえて職員それぞれのアセスメントやモニタリングの見立てを深掘りしてケアプラン作成を行っている。毎月の担当者会議では、利用者一人ひとりの個別処遇を振り返る機会としている。	「本人からの聴き取りより言語化は苦慮も多いです。施設サービス計画書(1)利用者の生活に対する意向に日常生活の利用者からの言語・非言語的コミュニケーションの聴き取りよりの言語化」を期待致します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子を毎日記録に残し発言内容なども記入する様にしています。毎月の会議の中で個別処遇をしっかりと行い、どの様なケアをしていくのか方向性を話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の中だけでケアが完結する事がない様に、多くの社会資源を取り込むように心がけています。訪問歯科・訪問美容・マッサージ等の利用継続と、今後必要になり得るボランティアや訪問リハ等、コロナの状況を見ながら取り込んでいきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域の行事に積極的に参加させて頂いていました。地域との関わりを大切にしたい気持ちは今も変わらずに持ち続けています。散歩時には変わらずに声を掛けて下さる方がいたり、近所の有人販売でお野菜を買うなどの交流は続いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医にご家族様と受診をして頂く様になっています。状態やご家族様の環境で浜屋の近所の診療所に移行される方もいます。病院と浜屋で細かく情報を伝える事と、ご家族様への報告を行なう事で皆がご本人様の状態を把握出来るように努めています。	月1回、施設から50mにある協力診療所へ家族と通院している。受診前に医師へ連携書式にて生活状況を伝達し、病院と浜屋で細かく医療、介護情報を共有している。施設、病院、家族が本人の状態の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師とは常に報連相を行い、必要に応じて処置を行ったり、指示を仰いだりしています。その後の経過も細かく伝え、状態把握が行なえる様になっています。訪問看護を利用している方もいるので、そちらの看護師とも情報の共有を細かく行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に対して、普段の状態報告を細かく申し送る様にしています。現在の状況では面会が出来ない事が多いので、定期的に病院の看護師と連絡を取り状態の把握をしています。退院時にも病院の相談員や看護師との連絡を取り合い、施設での生活にスムーズに移れる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からどのような最期を迎えたいかの話をする事もあり、実際に終末期に近づいてきた際には、その時その時でご家族様に丁寧に説明を行ない、意向を確認しながらケアを進めています。ご家族様と職員と一緒に看取る気持ちを大切にしています。ご家族様には泊まって頂く事も出来る様に環境を作っています。	入所時に契約書、重要事項説明書、重度化対応・見取りに関する指針を本人および家族に、管理者や介護支援専門員が説明をし同意を得ている。個々の状況において、主治医との連携によるケアプランに基づく看取りケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設にあるAEDの使用の確認や緊急時の対応方法の確認等を行っています。また、防火管理者講習や消防署が主催している救命講習などへの参加をする事で知識の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の総合防災訓練を行い、非常時の避難方法の確認を行っています。参加出来なかった職員に対しては動画での研修を行ないます。夜間の避難訓練に関しては、難しい点が多いので、消防署の方に訓練内容の相談をしたりしました。	年2回の防災訓練を同法人特別養護老人ホームと合同で行っている。参加出来なかった職員には動画視聴研修を行っている。夜間の避難訓練は実施が困難な為、夜間想定訓練を消防署や特別養護老人ホームの施設長と相談し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. 人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りに気を使って話せない方もいらっしゃるの で、話しやすい環境を作り、想いを引き出せる様 に努めています。自分たちよりも長い人生を過ご してきた先輩という敬意を持ち、個人の想いや生 活を否定しない様な声かけや態度にも注意して います。	ケアプランやプライバシー保護マニュアルを基本と している。虐待防止、リスクマネジメントをテーマと する権利擁護に関する施設研修で、職員の人権 擁護に関する知識、権利侵害防止に関する倫理 観の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	声かけ一つでも、決め付ける事無く「どうしたい か？」を聞くようにしています。それぞれの入居 者様の性格を把握した上で、その人が出来るだ け答えやすい様に質問をしたり環境を整えたりし ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が希望している生活のペース(就寝・起 床・入浴・散歩等…)を把握して出来る限り添っ たケアを行なうようにしています。その日によっ ても気持ちは変わるので、日々の観察をしっかりと 行う事で、今はどうしたいのかという想いを汲み 取る様努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	毎日の身だしなみや衣類の選択に関してはご自分の 好きなように整えてもらったり、必要に応じて介助を 行ったりしています。また、行事のある時にはメイクをし たりヘアセットをしてお洒落を楽しめる様にしています。 訪問美容でも、カラーをやりたい方や希望の髪形など 要望を伝えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	コロナの影響で一緒に準備をする事が出来なく なりましたが、行事ごとの食事や、定期 的なレクリエーションの企画を行い楽しんでもら える様に工夫しています。入居者様のリクエスト を聞いたり嗜好品等を食事のメニューに加えたり おやつにしています。	入居者より嗜好要望を聴いている。誕生日や記念 日をサプライズ企画し、メニューや食事の準備、食 事づくり、片付けなどを入居者とスタッフで一緒に 考え行っている。縁側カフェ、お菓子釣堀等をイン スタグラムで家族に見ていただけるように発信し 工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	一人一人の嗜好に合わせて飲物を提供したり、 水分を摂取したがる方には、こまめに(タイミ ングを見計らって)提供する等しています。また、 最近では個人毎の飲水量を把握出来るようにア プリア管理をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後は行なえていませんが、口腔ケア時には 必ず職員が見守り、仕上げ磨きも行なっていま す。異常が無いかの観察を行い、定期的に訪問 歯科で検診や治療を進めています。突発的に何 かがあった際にも訪問歯科で対応して頂いてい ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンに合わせて声かけや誘導を行なっています。ご本人様の身体に合わせて、皮膚の状態を見ながらパットやオムツの選択も行なっています。夜間はしっかりと寝たい方に対してはオムツを着用する等の対応もしています。	iPadの「ケアアプリ」を活用し、一人ひとりの排泄サイクルのアセスメントにより自立支援できるようにケアプランを言語化している。飲水、排泄量、排泄リズム、バイタルで管理している。月1回以上の浜屋会議で共有しケアを図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬に頼るだけでなく、食事のコントロール(食事量や水分摂取量の把握)を行い、乳製品や食物繊維など、食品からのアプローチを試みたり、散歩や掃除等で身体を動かし、スムーズな排泄が出来るように援助しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞きながらその日によって入浴する・しないは変わりますが、基本的に皆さんが2日に1回は入浴をされています。一人での介助が難しい方は職員2人介助で安心して入浴出来るように配慮しています。	入浴したい・したくない等の意思を尊重している。体調をアプリで管理し、2日に1回気持ちよく入浴できるように努めている。個浴と手摺付き浴槽を完備しており、時間帯、曜日も固定せず調整しながら実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方によって就寝時間が違うので、その方に合わせて臥床を促しています。冬は、寒くて寝られないという方には湯たんぽを用意したり、加湿器を設置したり、入眠しやすい環境作りにも配慮しています。人によっては日中に臥床時間を設ける方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、入居者様のお薬の情報(副作用も含めて)しっかりと把握する様に努めています(薬情をアプリで管理)。変更があった際にもその後の経過に留意して観察を行っています。与薬の統一が出来るようにマニュアルを作り、事故のない様努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在はコロナで難しい事も多いですが、今まで好きでやってきた事や、得意な事(家事や料理)など出来る限り継続できる様に支援をする事で、生活が楽しくなったり充実したものになって頂きたいと考えています。季節毎の行事を行なう事で張り合いがもてる様に工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	上記と同様で、コロナ禍で難しくなっています。お散歩や買い物(近所の有人販売等)には出来るだけ希望時に行くように対応しています。ご本人様の希望があれば、ご家族様と相談をして叶えられるように援助していきたいと、いつも考えています。	一人ひとりのその日にしたい希望や入居者同士でしたいことを考え勤務体制を工夫している。外出の機会として初詣(神社)、馴染みの場所への散歩、買物など、できるだけ小グループで一緒に出かけている。家族との時間をできるだけ作ってもらえるように、面会や外出の機会をサポートしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の管理は、ご家族様・事務が管理しています。ですが、安心の為に財布を持っていたい方も多いので、ご家族様に依頼して紛失してしまったとしても差し支えの無い金額をお財布に入れてご自分又は職員で管理している方もいらっしゃいます。近所の販売機や移動スーパー等で利用されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があった際にはもちろん、こちらからも提案して、ご家族やご友人と電話やテレビ電話をして頂いています。コロナ禍である今は特にその機会が絶えない様に気を配っています。年賀状を書いたり、以前は文通等をされている方もいらっしゃいました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた生花やタペストリーなどの装飾を行い、建物の中でも季節を感じて頂ける様にしています。施設っぽくならない様に設えは気を配っています。光の強さにも配慮して暖色系の暖かい光で落ち着くことが出来るような空間作りにも配慮しています。	利用者の過ごしている様子でのメリット、デメリットを踏まえて環境に配慮しており、一緒に入居者同士がくつろげる空間、独りになれる空間がある。トイレや廊下の換気、温度、光彩に気を付けている。園庭には、季節の草花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	浜屋にはパブリックスペースとなる場所が複数あります。皆と一緒に過ごしたい方が多いので、天気の良い日の縁側・テレビを見たい時の応接間・勉強は食堂で…等それぞれで利用されていますが、一人で過ごしたい時には他からは死角になる場所も多く、臨機応変に使い分けの事が出来ています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の居室に設置されているベット等以外のご自身でのご用意をお願いしています。使い慣れた物に囲まれる事で得られる安心感やご家族様の想いが感じられる設えを大切にしたいと考えています。転倒の危険がある方に対しては、居室内の動線を考えて事故が少なくなる様に努めています。	ひとりひとりの個室には、自宅で使っていた家具、思い出の品を持ち込んでいる。部屋からは庭や郊外の様子を眺めることができる。スタッフと一緒に部屋の清掃や寝具を干すなど、入居者と一緒にスタッフが環境衛生に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浜屋は、段差もあり手すりも少ないのですが、あえてバリアフリー化をしない事で、今までの生活に近い環境を作っています。それによって身体面の維持に繋がると考えていますが、リスクも伴うので職員も注意して対応しています。ご家族様にもご理解を得ています。		